

# 「実学」で高校生育成

## 県内企業

県内企業が高校を対象に、体験学習や講座を開く動きが相次いでいる。工場の自動化システムの三明機工(静岡市、久保田和雄社長)は産業用ロボットの体験授業を実施。通信販売のムトウは商業高校の教師向けに、ネット通販を学ぶ勉強会を始める。高校生に地場企業の魅力やものづくりの楽しさを肌で知ってもらい、将来の人材育成につなげる考えだ。



三明機工の社員の指導を受けながら産業用ロボットを体験した

三明機工は30日、静岡県立科学技術高校(静岡市)の生徒を招き、産業ロボットの体験授業をし

た。1回の授業に参加する生徒は7〜8人。アームの先端にペンを持たせたロボットを動かして文

字や線を書いた。生徒は社員の説明を受けながら操作盤に触って文字書きなどに挑んだ。

### 三明機工 ロボット体験授業 ムトウ 教師と通販勉強会

生徒は今後、産業用ロボットのプログラムを組む。9月をメドに生徒のプログラムで同社のロボットを動かす予定だ。久保田社長は「産業ロボット分野の若い技術者を育てたい」と意気込む。IT(情報技術)分野でも連携が広がっている。ムトウは9日、浜松商業高校(浜松市)など県内の商業高校教師15人を対象に勉強会を開く。2013年度の新学習指導要領への移行をにらんで、県商業教育研究会からムトウに依頼があった。新学習指導要領ではITの進展や経済のグローバル化に対応して「ビジネス情報管理」を新設する。ムトウの情報システ

ム担当者がネット通販の商品管理や決済の仕組みなどを教師に解説する。商業高校はITビジネスの現場の声を授業に生かす。今回は教師向けだが、今後、生徒向けの講義も検討する。県内では高校と企業の連携が進んでいる。科学技術高校では、地元の信用金庫が紹介した県内中小企業を学生が訪問する「企業研究制度」を導入。県と工業高校、企業が組み、夜間定時制高校に通う生徒の就労を支援する制度も今年度から導入予定だ。

技術高校では、地元の信用金庫が紹介した県内中小企業を学生が訪問する「企業研究制度」を導入。